

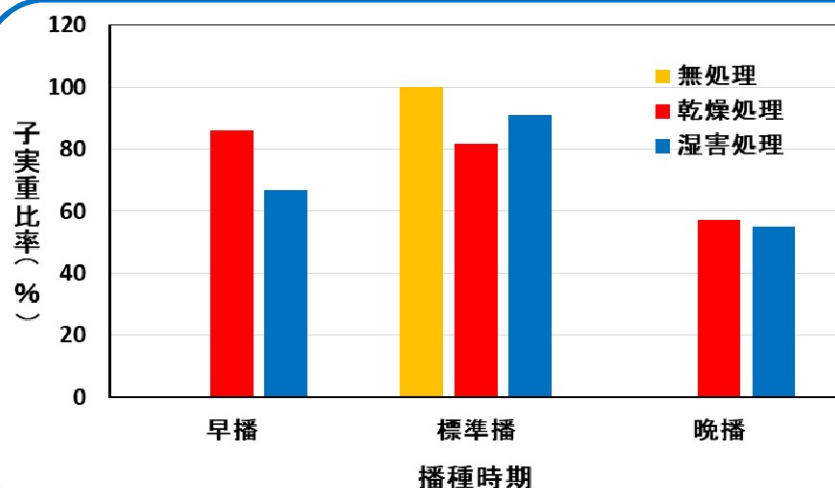
大豆(品種:ちくしB5号)の乾燥害や湿害を軽減できる栽培技術を開発しました

背景

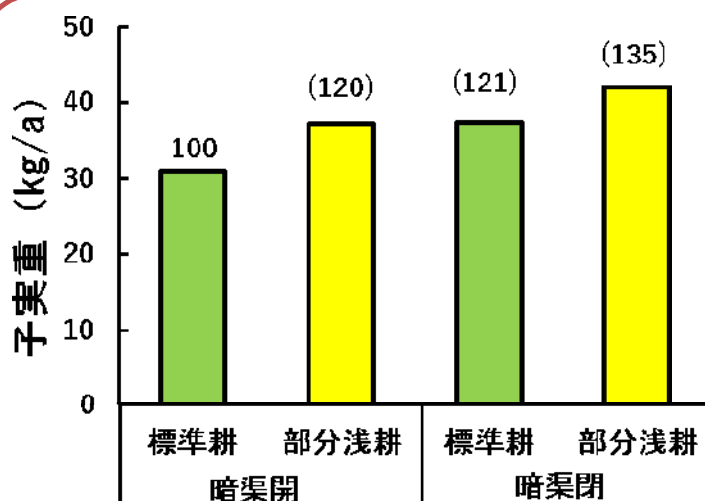
近年、播種後の乾燥害や湿害の影響による大豆の収量低下が課題となっており、その被害を軽減するための技術開発が求められていました。

成果の内容

晩播回避で大豆の乾燥害・湿害を軽減し、さらに、部分浅耕一工程播種と出芽後の暗渠栓閉鎖で乾燥害の一層の軽減が可能です。



梅雨明け後に乾燥処理や湿害処理を実施した場合、晩播で収量が最も低下しました。



暗渠開

暗渠閉

夏場少雨の見通しの年は、部分浅耕一工程播種と暗渠栓を閉めることで収量が増加します。

【研究チームのコメント】

○湿害および乾燥害対策の実施により、大豆の安定生産に貢献できれば幸いです。

(農産部 作物栽培チーム)